

- 問1 平安時代中期に藤原道長が摂政に就任したことで全盛期を迎えた、藤原氏が天皇の代理や補佐として実権を握る政治形態を何といいますか。  
(2017年 沖縄公立入試 類似)
1. 摂関政治 2. 院政 3. 幕府政治 4. 親政
- 問2 平安時代の中期には、遣唐使の廃止などを背景として、日本の風土や生活に合わせた国風文化が発達しました。この時期、漢字を簡略化した「かな文字」を用いて紫式部によって執筆され、当時の華やかな貴族社会の様子を題材とした物語文学を選んでください。  
(2016年 和歌山公立入試 類似)
1. 源氏物語 2. 枕草子 3. 平家物語 4. 万葉集
- 問3 11世紀後半に白河上皇が「院政」を開始した背景や目的を説明したものとして、最も適切なものを選択してください。  
(2017年 佐賀公立入試 類似)
1. 藤原氏などの摂関家が代々実権を握る政治を抑え、天皇家の主導権を取り戻すため。 2. 平清盛ら武士の勢力を抑えるために、東北地方の蝦夷と手を結んで軍事力を強化するため。 3. 足利義満が行った日明貿易に対抗し、天皇自身が中国(宋)との直接貿易を行う権限を得るため。 4. 平城京から平安京への遷都をスムーズに進めるために、仏教勢力の政治介入を排除するため。
- 問4 10世紀後半、唐が滅亡した後に続いた分裂状態の中国を再び統一し、日本が平安時代の頃に栄えた王朝を何というか、名称として正しいものを選びなさい。  
(2019年 埼玉公立入試 類似)
1. 宋 2. 元 3. 明 4. 隋
- 問5 平安時代末期、武士として初めて太政大臣の位にのぼり、自身の娘を天皇のきさきにすることで政治的な実権を握った人物は誰か。  
(2014年 沖縄公立入試 類似)
1. 平清盛 2. 藤原道長 3. 源頼朝 4. 足利尊氏
- 問6 平安時代末期、平清盛は武士として初めて、朝廷における最高職である官職に任命されました。その官職名を次の中から選びなさい。  
(2017年 千葉公立入試 類似)
1. 太政大臣 2. 征夷大将軍 3. 関白 4. 執権
- 問7 平清盛を中心とした平氏一門が政治の実権を握った背景には、皇室との密接な親族関係がありました。清盛の娘である徳子が、高倉天皇の妃として嫁ぎ、その間に生まれた子が幼くして即位しましたが、このとき平氏の繁栄を象徴する存在となった天皇は誰ですか。  
(2020年 奈良公立入試 類似)
1. 後白河天皇 2. 崇徳天皇 3. 安徳天皇 4. 鳥羽天皇
- 問8 藤原氏が摂政や関白として朝廷の官職を独占した理由を述べた次の文章のうち、当時の政治の仕組みとして正しい記述を選びなさい。  
(2017年 鹿児島公立入試 類似)
1. 天皇の外祖父(母方の祖父)という立場を利用して、天皇に代わって、あるいは天皇を補佐して政治を執り行ったため 2. 私地私民の原則を否定し、すべての土地を藤原氏の私有地として認める制度を確立したため 3. 太政官などの伝統的な役職をすべて廃止し、藤原氏の家臣のみで構成される新しい議決機関を作ったため 4. 地方を統治していた国司の任命権を天皇から完全に奪い、軍事力を背景に地方政治を直接支配したため
- 問9 桓武天皇の時代に、東北地方に居住し朝廷の支配に抵抗していた「蝦夷」と呼ばれる人々を服属させるため、軍の指揮官として任命された人物は誰ですか。  
(2024年 秋田公立入試 類似)
1. 坂上田村麻呂 2. 源義経 3. 藤原清衡 4. 足利尊氏
- 問10 白河上皇が院政を開始した背景とその政治的目的について述べた文として、正しいものはどれですか。  
(2017年 沖縄公立入試 類似)
1. 摂関家との血縁が薄い後三条天皇の即位により、藤原氏による専制が弱まったことを受け、上皇自らが実権を握ろうとした。 2. 平氏や源氏といった武士の力が強大になったため、それらを鎮圧するために天皇が退位して軍事権を握ろうとした。 3. 土地の国有化を進める班田収授法が機能しなくなったため、新しい戸籍制度を確立して律令国家を再建しようとした。 4. 仏教勢力の強まりに対抗するため、上皇は出家して法皇となり、寺院の武装化(僧兵)を完全に禁止しようとした。
- 問11 平安時代初期、朝廷の支配に抵抗する東北地方の蝦夷(えみし)を平定するために、坂上田村麻呂が任命された官職を何といいますか。後に鎌倉幕府や江戸幕府を開いた人物たちが、武士の頂点を示す称号として用いることになった名称を答えなさい。  
(2015年 佐賀公立入試 類似)
1. 征夷大将軍 2. 摂政 3. 関白 4. 太政大臣
- 問12 894年に遣唐使の派遣が停止された理由として、当時の状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。  
(2023年 大分公立入試 類似)
1. 派遣先である唐の国勢が衰退しており、往復の航海も非常に危険であったため 2. 白村江の戦いで唐の軍勢に敗北したことにより、国交が途絶えていたため 3. 遣唐使の派遣が始まったことで、中国との外交ルートが新しくなったため 4. 唐が滅亡し、新しく宋(北宋)が建国されたことで交流の必要がなくなったため
- 問13 古今和歌集の編纂の中心人物であり、かな文字を用いた日記文学の先駆けである『土佐日記』の著者としても知られる人物は誰ですか。  
(2022年 三重公立入試 類似)
1. 紀貫之 2. 山上憶良 3. 藤原定家 4. 紫式部
- 問14 平安時代の政治の変遷について述べた次の文のうち、白河天皇が行った政治体制の仕組みとして正しいものはどれですか。  
(2024年 愛知公立入試 類似)
1. 天皇が位を退いて上皇となった後も、特定の役職に縛られずに政治の主導権を握った。 2. 藤原氏が娘を天皇のきさきに送り込み、その子供が天皇になると摂政や関白として政治を行った。 3. 源頼朝が征夷大将軍に任命され、守護や地頭を各地に配置して軍事や警察の権限を握った。 4. 唐の律令を模範とした法を整備し、全国に国司を派遣して土地と民を直接支配した。
- 問15 国風文化が栄えた平安時代中期、藤原氏などの貴族が居住していた建築様式について説明した文として適切なものはどれですか。この様式は、池のある広い庭園を囲むように建物が配置され、風通しを良くする工夫がなされているのが特徴です。  
(2021年 岡山公立入試 類似)
1. 書院造 2. 寝殿造 3. 武家造 4. 高床建築

## 答え合わせ・解説

|     |  |   |
|-----|--|---|
| 問1  | 答え 1<br>摂関政治   | 藤原氏は、天皇が幼少のときは「摂政」、成人してからは「関白」という官職に就くことで政治の実権を握りました。道長とその子である頼通の時代にその力は絶頂に達し、娘を次々と天皇の后（きさき）にすることで、天皇の外祖父（母方の祖父）として強い影響力を行使しました。  |
| 問2  | 答え 1<br>源氏物語   | 平安時代中期、遣唐使の停止により大陸の影響を消化した独自の「国風文化」が花開きました。この時期に発明された「かな文字」は、漢字では表現しきれない日本人の繊細な感情を記すことを可能にし、宮廷に仕える女性たちによる文学が隆盛しました。紫式部によるこの作品は、光源氏を主人公に貴族社会の恋愛や栄華、無常観を描いた、世界最古級の長編物語として知られています。       |
| 問3  | 答え 1<br>藤原氏などの摂関家が代々実権を握る政治を抑え、天皇家の主導権を取り戻すため。                   | 平安時代中期まで続いた藤原氏による摂関政治は、天皇との血縁関係（外戚）を基盤としていました。白河上皇は、天皇が位を退いて自由な立場の上皇となることで、摂関家の影響を受けずに独自の役所（院庁）で政治を執り行う体制を整えました。これにより、政治の主導権を摂関家から天皇家側へと引き戻すことに成功しました。                                |
| 問4  | 答え 1<br>宋  | 唐の滅亡後、五代十国と呼ばれた約50年の分裂時代を経て、960年に建国された王朝です。日本では藤原道長らが活躍した平安時代中期から後期に該当し、公式な使節の派遣は途絶えていたものの、民間貿易を通じて日本に大きな影響を与えました。  |
| 問5  | 答え 1<br>平清盛  | 平氏は瀬戸内海の内海鎮圧などで勢力を伸ばし、平清盛の代で全盛期を迎えました。清盛は武士として初めて最高官職である太政大臣に就任したほか、娘の徳子を高倉天皇のきさき（中宮）とし、その間に生まれた子を安徳天皇として即位させることで、藤原氏が行った摂関政治と同様の手法で権力を強固にしました。                                       |
| 問6  | 答え 1<br>太政大臣   | 平清盛は1167年に、それまで貴族の独占状態であった最高官職の太政大臣に就任しました。これにより、平氏の一族が政治の要職を占める「平氏政権」を確立し、武士が政治の実権を握る先駆けとなりました。  |
| 問7  | 答え 3<br>安徳天皇   | 平清盛は、娘の徳子（建礼門院）を天皇の妃に送り込み、その間に生まれた安徳天皇を即位させました。清盛は安徳天皇の祖父という立場を利用して、政治の主導権を握りました。この親族関係によって平氏は全盛期を迎えましたが、後の源平合戦（治承・寿永の乱）において安徳天皇は平氏とともに西国へと逃れることになります。                                |
| 問8  | 答え 1<br>天皇の外祖父（母方の祖父）という立場を利用して、天皇に代わって、あるいは天皇を補佐して政治を執り行ったため    | 摂関政治の根幹は、天皇との緊密な血縁関係にあります。藤原氏は娘を天皇の后にすることで、次代天皇の「外戚（母方の親戚）」となることを目指しました。これにより、幼い天皇を助ける摂政や、成人した天皇を補佐する関白という地位を世襲し、他の貴族を圧倒する権力を維持しました。武力や制度の抜本的な改革ではなく、既存の朝廷の仕組みの中で血縁を利用して実権を握った点が重要です。 |
| 問9  | 答え 1<br>坂上田村麻呂   | 桓武天皇は平安京への遷都を進める一方で、律令国家の支配を強化するために東北地方への遠征を積極的に行いました。その際、征夷大將軍として抜擢されたのが坂上田村麻呂です。彼は現在の岩手県にある胆沢城を拠点に蝦夷の指導者であったアテルイを降伏させるなど、朝廷の勢力範囲を北へと大きく広げる役割を果たしました。                                |
| 問10 | 答え 1<br>摂関家との血縁が薄い後三条天皇の即位により、藤原氏による専制が弱まったことを受け、上皇自らが実権を握ろうとした。 | 院政が始まる直接の背景には、藤原氏を外戚（母方の親戚）に持たない後三条天皇が即位し、摂関家を軽視する政治を行ったことがあります。その子である白河天皇は、この流れを引き継いで退位後に院政を始め、藤原氏から政治の主導権を奪い返しました。  |
| 問11 | 答え 1<br>征夷大將軍  | 桓武天皇の時代、朝廷の支配を東北地方まで広げるため、軍の総帥として坂上田村麻呂がこの職に任じられました。当初は「蝦夷を征討する將軍」という意味でしたが、後に源頼朝がこの官職を望んで得たことから、武家政権の首長を指す重要な称号へと変化しました。   |
| 問12 | 答え 1<br>派遣先である唐の国勢が衰退しており、往復の航海も非常に危険であったため                      | 遣唐使の停止には、大きく分けて2つの理由があります。一つは、唐国内で反乱が起きるなど国勢が衰えており、命を懸けて派遣しても得るものが少なくなっていたこと。もう一つは、東シナ海を渡る航海が依然として困難で、多くの犠牲者を出すほど危険だったことです。   |
| 問13 | 答え 1<br>紀貫之  | 紀貫之は古今和歌集の選者の一人であり、その序文（仮名序）を執筆したことで有名です。また、当時男性は公的な文書を漢文で書くのが一般的でしたが、彼はあえて女性を装ってかな文字で『土佐日記』を執筆し、国風文化における文学の発展に大きく貢献しました。山上憶良は奈良時代の歌人、藤原定家は鎌倉時代初期の『新古今和歌集』の編纂者です。                     |
| 問14 | 答え 1<br>天皇が位を退いて上皇となった後も、特定の役職に縛られずに政治の主導権を握った。                  | 白河天皇が始めた院政は、天皇が讓位して上皇（院）となり、摂関家の役職である摂政・関白を介さずに政治を動かす仕組みです。これにより、それまで全盛を誇った藤原氏の摂関政治を抑え、独自の軍勢力（北面の武士など）を組織して支配を強めました。  |
| 問15 | 答え 2<br>寝殿造  | 日本の蒸し暑い夏を快適に過ごすため、壁が少なく開放的な造りになっているのが特徴です。中心となる「寝殿」から左右に廊下が伸び、その先に「対の屋」が配置されるなど、貴族の華やかな生活空間を形成していました。室町時代に広まった書院造と区別することが重要です。  |